

Nihongo Network News

1999.10.8発行

No. 23

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付 ☎03-3235-1171

日本語ボランティアの経験やノウハウをみんなの財産に

TNVN 『生活支援研究会』

『日本語支援研究会』がスタート！

TNVNが活動を始めてから、そろそろ6年になろうとしています。各地域で活動している日本語ボランティアたちもかなり経験を積み、ベテランになってきました。しかし、それらボランティアたちの貴重な経験や、それによって生み出されたアイディアなど、ニュースレターで取り上げ始めてはいますが、まだ大部分が各地域で、また

は個々に使われているだけということは、たいへん残念です。ボランティアたちがそれぞれの財産を持ち寄り、検討し合い、発表していくことが望まれます。

そこで、まず学習者の生活支援面と日本語学習支援面について考える二つの研究会をスタートさせることになりました。毎月1回程度、TNVN



事務局活動日にミーティングを開きます。

「生活支援研究会」と「日本語支援研究会」のそれぞれに関心のある方、また情報をお持ちの方などのご参加をお待ちしています。日程等については、TNVN事務局（10ページ参照）までおたずねください。

**TNVN事務局の活動が
毎週金曜日
に変わります！**

TNVNは'93年の発足以来、毎週月曜日に東京ボランティア・市民活動センターで事務局活動をしてきました。しかし、この10月から会場である東京ボランティア・市民活動センターが毎週月曜日休館と変更になるため、それにともないTNVNの事務局活動も毎週金曜日へと変更することになりました。今後は、原則として毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランテ

ィア・市民活動センターで活動していきます。

また、これまで毎月第二月曜日（14:00～16:00）と第四月曜日（18:00～20:00）に開講していた日本語ボランティア入門講習会は、10月までは従来通り月曜日の開催で、11月から金曜日の開催となりますので、ご注意ください。

（詳細は10ページ参照）

交 差 点

ネットワーク情報交換会だより

第9回ネットワーク情報交換会

9月17日(金) 18:00~20:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター
会議室B

外国人の生活支援／家庭崩壊 (国際結婚と経済事情)

事例報告

◆ Y子さん(中国・上海出身)の場合
小川伶子(初歩日本語)

◆ はんのう日本語クラブの場合
梅原十糸子(はんのう日本語クラブ)

今回の情報交換会は、いつもとは傾向の違う特別テーマとして「外国人の生活支援／家庭崩壊等」についてとりあげてみました。地域での日本語ボランティアを続けていると、そこに集う学習者の個々の悩みや相談を聞く機会も多くなります。そこで、今回は「結婚・離婚」に的をしばって事例報告を聞き、その後で質疑応答をしたり意見を述べあったりしてみました。

事例報告は、飯能市の「はんのう日本語クラブ」の梅原さんと、練馬区の「初歩日本語」の小川さんをお願いしました。梅原さんからは、それぞれ「文化的な違いを互いに受け入れあえない」「日本男性が親離れしていず、また、女性観自体にも問題がある」「言葉の壁による意思疎通の難しさ」といったさまざまな理由から離婚に向かう例をそれぞれ紹介されました。飯能市では、もともとは農村部へ嫁ぐ女性が一般的でしたが、最近では都市型労働者と結婚する女性が多くなり、離婚件数も増加しているとのことでした。

また、小川さんからは、自分の関わる一人の学習者を例にとつての離婚に至る過程やその後の経過説明があり、彼女自身が取り組んだことについての報告もな

されました。「ボランティアとして力になれることは何もなく無力感だけが残っているけれど、話を聞いてあげることがその学習者の力になったことだけは確かだ」との発言が印象的でした。小川さんは、現在でもその学習者と電話で連絡をとりあっているそうです。

事例報告の後の質疑応答・意見交換では、先ほどの事例発表を受けて「男性の側にも悩みや苦しみがあるのではないだろうか」「日本人と結婚したがるアジアの女性が多いのも事実なのではないだろうか」といった意見も飛びだし、あらためて、結婚・離婚は一方の性だけの問題ではないということを感じさせられました。また、「日本語ボランティアを女性問題としてとらえたことはあるか」との問いかけには意見が割れ、けれども「相手を過剰に被害者あつかいするのはどうかと思われる」「“助ける”ことはできても、同じ人間なのだから“救う”ことはできない」といった意見には賛成の声が多くあがりました。「国際結婚において重要なのは“多文化”を理解することよりも、むしろ“他文化”を理解する気持ちなのでは」との声や「文化的な違いを受け入れるには、互いに努力するしかない」との意見もありました。

いずれにせよ、私たちにできることは

「まず、話を聞いてあげること」で、「離婚問題を一般化すること自体が間違いであり、個々の問題として取り上げるべきだ」との意見も多く聞かれました。また、「制度が変わることによって、現実も変わっていくのではないか」といった声や「国の違いということだけではなく、単なるジェネレーションギャップのせいではないか」といった意見もありました。なかには「日本語ボランティアはしていても生活支援のことにまでは関わりたくないと思う人もいます」という発言もありました。

この日は雨が降っていたこともあってか出席者もいつもより少なかったのですが、そのぶん、出席者全員が活発に意見を発表しあうことができ、充実した2時間を過ごすことができたように思えます。ただ、時間が少ないせいか、さらに深く話し合うことができず、問いかけや意見ばかりで解決策にまではなかなか至らなかったことが残念でした。

上野悦子



次回のネットワーク情報交換会のご案内

◆日時／11月19日(金) 18:00～

◆会場／東京ボランティア・市民活動センター 会議室

今回は、「中級以上の学習支援の仕方」ということで、情報交換をしてみたいと思います。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立つ教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

●ボランティアからの提案

話す場・聞く場を提供しあうアイデア ～地域の学校と交流してみませんか～

ことばのひろば (板橋区)
大内 多恵子

「日本での生活」をテーマに学習者とともに学ぶボランティア日本語教室活動をすすめるなか、五年前に区立小学校の6年生担任から「自国のこと」を話してくれる学習者の紹介を依頼されました。これをきっかけに毎年一回、区立小学校と交換授業をしています。

近年、学校教育でも児童・生徒の国際教育の素地を育てることに積極的で、外国の人々と交流して異文化に対する理解を深める方法を模索しているようです。ボランティア日本語教室で学習している外国人にとっても、実際に日本語を使い、聞きとる場として児童・生徒たちとの交流は有意義な場となるのではないかと提案します。

一例として、1998年の交換授業のプログラムをご紹介します。

「世界はひとつふれあい交流会」 実施計画

◆プログラム (10:30～12:00)

- ①入場
- ②開会
- ③校長先生の挨拶
- ④外国の方々の紹介と挨拶
- ⑤知り合おうタイム【社会科】
- ⑥スポーツ・遊びふれあいタイム【ゆとり】

- ⑦外国の方の感想
- ⑧全員の合唱・閉会

◆知り合おうタイム

(互いの国のことを語り合おう)

- ①挨拶 (外国の方の国の言葉で)
- ②自己紹介
- ③インタビュー (外国の方から児童へ、児童から外国の方へ)
- ④挨拶・記念撮影

※外国の方の国については資料を調べ、あらかじめ質問も考えておく。

◆スポーツ・遊びふれあいタイム

(いろいろなスポーツや遊びをしよう)

卓球・バドミントン・ドッジボール・折り紙・こま回し・竹馬など

※短い時間のなかで十分活動できるよう、無理のない計画をたてる。

内容・準備・ルールなどはそれぞれのグループで話し合って準備する。

このプログラムのために 日本語教室で学習したこと

◆訪問前

- ◎小学生が日本語教室を訪問して、招待状を持参する
→学習者はこれを聞き、読んで、質問する
- ◎小学校の地図を見る
→学校までの電車の経路や道順を説明する

- ◎参加・不参加を伝える電話をする
→パートナーとシュミレーション会話の練習

- ◎パートナーと待ち合わせをする
→待ち合わせ場所の言い方などを練習

- ◎いろいろなスポーツを知る
→日本のスポーツや自国のスポーツについて話す

- ◎自己紹介・スピーチの練習
→自分の趣味の話やあいさつ・お礼のスピーチを練習

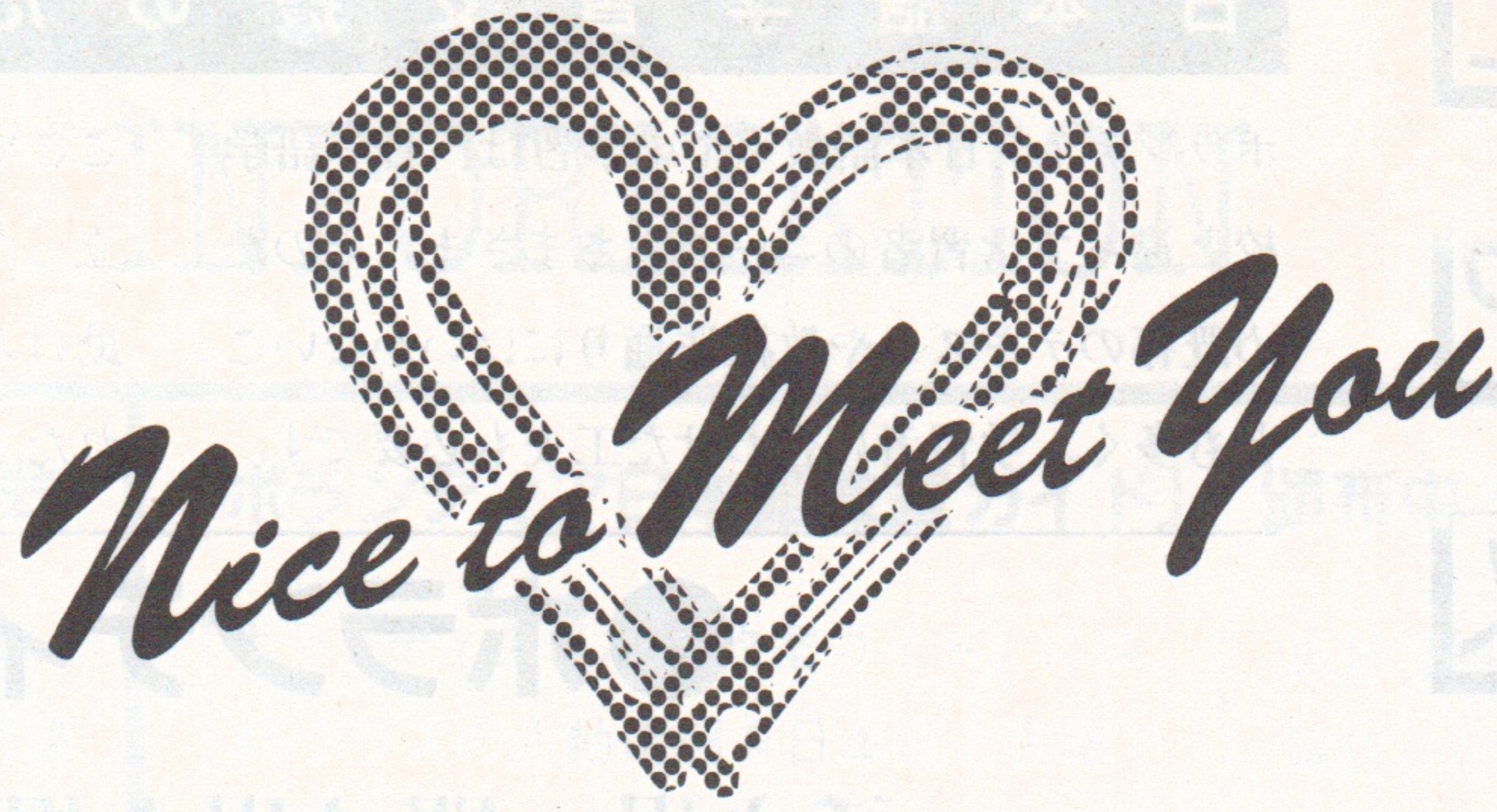
◆訪問当日

- ◎小学校5・6年生の「社会科」及び「ゆとり」の学習時間に学校を訪問
- ◎事前に学習したことを実体験する
- ◎小学生の質問に答える

◆訪問後

- ◎訪問の感想文を作成
→小学生からの感想文と交換して読む
- ◎ビデオを見て話し合う
→当日の感想やわからなかった言葉などを話し合う

学習者からは「自分の国のことをいろいろ質問されて、自分が使える言葉を捜しながら一生懸命答えた」、小学生からは「外国人はよく見かけるけど、話をするのは初めてなので緊張した」という感想がよく聞かれます。



楽しみながら 子どもたちの学習をサポート

寺子屋KIDSセンター（多摩市）
中田 紀子

1993年に活動を始めた寺子屋KIDSセンターは、キッチンが丸見えのせまい部屋が教室です。毎週水曜日午後3時になると、小さい学習者が集まります。すぐに席につき、自分で勉強したい課目をスタート。その姿は、見学に来る親たちが「信じられない」と驚くほど真剣な光景です。

ここでは、主に国語の音読や単語を使っての文章作りに重点をおいています。両親または片親が外国人である場合、日本語の発音の不自然さに気づきにくく、注意することもできないためです。学校で「ヘンな読み方」と笑われた子どもは自信をなくし国語の授業が嫌いになってしまったり、日本語の理解力が足りないために算数の応用問題が解けないといった問題も起こります。

しかし、深刻に考えているのは私だけ。子どもたちは小さな手をせっせと動かして静かに学んでいます。やがて4時半になり上級生もやって来ると、食器棚からマイカップをとりだして「きょうのおやつはな～に？」とたんに賑やかに、子ども同士の交流がはじまります。キャンプやクリスマスパーティーのためにゲームを考えたり、プレゼントの品定めで話が弾み、それはそれは楽しいものです。

子どもの教育は教師が強く指導するのではなく、気長に少しだけ助けることが大切。先生はアンサーマシンではないと理解すれば、友だち同士で教え合いながら学力も向上するでしょう。全国にこのようなクラスが増えていけば、国籍を問わず素晴らしい人間が育っていくと信じています。



名前を覚えて、ともに学ぼう！

日本語ともの会（北区）
山本 敬子

「ワタシハ、カンコクノ〇〇デス。ドーズヨロシク」
「アメリカから来ました〇〇です」「〇〇デス。チュコクデス。ドゾヨロシク」「日本人ボランティアの〇〇です」

午後9時、勉強が終わって全員の顔合わせと自己紹介が始まった。黒板に自分の名前を書いて一人一人が拍手を受けながらの自己紹介。いくつかのグループに別れて勉強しているため、お互いに名前と顔を少しでも覚えてもらうための締めくくり活動である。

毎回新しい参加者があり、みんなが名前を呼び合えるようになるのは大変だが、その中から国や地域を越えたすばらしい出会いが生まれてくる。毎週木曜日の夜、40人位の人達が集まって勉強しているが、ここでは他に火曜日から土曜日まで、ボランティアによる日本語教室が開かれているので、ダブって参加している人も多い。

就学生・留学生・子連れの主婦・企業研修生・語学講師・旅行者など、知人友人からの口コミ、行政・TNVNなどからの紹介で参加し、にぎやかな交流の場をつくっている。

学習者、ボランティアとも会費無料の運営は7年目に入ったが、この間に参加した学習者は1000人をはるかに越え、多くの出会いと別れを経験した。短期間だった人、長く続けている人、それぞれが地域で、帰国された国で、そして世界中で、この教室を知って良かった、日本に来て良かったと言えるような良い思い出をつくってもらえるよう、ボランティア達の努力が続いている。

※22号に掲載された「話しましょう日本語を（目黒区）」は、「日本語を話しましょう（目黒区）」が正しい団体名です。訂正して、お詫びいたします。

感想

徐 玲 媛 / 台 湾

日本に来てから、早くも5年がたちました。始めに納豆を洗ったことを経験したり、わからないことをだんだん学んだり、日本人と友達になって、日本の文化、日本人の習慣、日本人の食生活等、いろいろな面がすこしわかってきて、言葉の壁もすこし越えて、プルミエの先生達にもたいへんお世話になって、心から感謝しています。

生活の中で一番難しい所は、やはり言葉です。いつも曖昧な意味で、「イエス」と「ノー」をはっきり言うないので、聞くとき、どんな意味かなと迷いました。「らしい」「そう」という表現が、実際に自分から使うとき、使えなくて、かえってストレートすぎて、無礼な気がしました。

ところで、日本に来てから、ずっと不思議に思っていました。それは、「コタツ」と「ファンヒータ」です。どうして焼けないのか、石油なのに、とてもいい発明と思います。冬の日本はた

しかに寒いですね。これを使っていつも暖かい冬を過ごせます。日本人はとっても幸せですね。

一つ慣れていないことは、まわりにタバコを吸う女性が、意外に数が思ったよりに大勢います。年齢的に、中学生から年配の方まで、いつでも、どこでも、タバコをつけている姿をよく見かけます。特に、妊婦は赤ちゃんのことを考えていないかなと心配になります。

もう一つ、モラルの低下のことが気になります。マスコミで、あるタレントは平気な顔で十五才初体験とかHなこと話している。私は「恥知らず」と思いました。世の風潮は下り坂で、私にとって考えられないことでした。

また一番大変なのは、子育てです。息子もだんだん大きくなって、どういうふうに育ていくのか心配です。言葉の壁、いい親子関係、いつまでも頑張りたいと思います。

ブルーノ・レピウフル / フランス (青山日本語クラブ)

日本の言葉や文化を
楽しくくべんきよう

私は日本に二年間いました。日本に来る前、フランスでちょっとこわかったです。日本はどんな国かとしんぱいしました。たとえば東京はすごくうるさくて、自然のない町だといわれました。でも、じつは東京ではいっぱいしずかなところがあります。小さい道には自然がおおく、本当に東京はすみやすい町です。せまい道や木の家や花がいっぱいの小さなにわなどです。パリより東京の方がすみやすいです。それに、電車に一時間のれば、東京のまわりに大自然があります。山や海岸でやすめます。でも、とまるのはだめです。りょかんはほんとうに高すぎます。

日本で一番好きなことは、日本人はすごくし

んせつな人ということです。たとえば青山のボランティアに日本語を教えてもらいました。それに、日本の文化も教えてもらいました。私の一番いい思い出は、ボランティアの人たちと文楽へ行ったことです。すばらしい文楽を見て、きゅうけい時間に芝居のバックステージ(楽屋)を見せてもらいました。きれいな人形の動きかたを見せてもらって、吉田玉男さんにしょうかいしてもらいました。この人形を動かす人は人間国宝で、年をとったけれども(80才くらい!)すごくじょうずです。このように、日本語だけでなく、文化やいろいろなことを教えてくれるのが、青山のボランティアの教えかたです。

八幡山日本語教室はこの8月で満1歳になり、定年退職とほとんど同時にこの教室でスタートした私の初めてのボランティア経験も、1年になりました。アフガニスタン・イスラエル・イラク・タイ・内モンゴルなど多くの国・地域の人が教室を訪れました。それをきっかけにして、今までは活字や地図の上だけだった世界が突然新しい身近なものに変わり、知の世界が広がるような楽しさを味わうことができました。また、日本語や文化等を話題にし、少しでも意の通じたときには、自ずと一種喜びの気持ちといったものが湧いてきます。それは、ボランティアとは無償のサービス・自己犠牲ではないかという、漠然と私なりに抱いていたボランティアに

対するイメージをすっかり変えてくれました。

一方では、気心が通じたと思っていた学習者が突然現れなくなり、また設立当初からの学習支援者の何人かが抜けていきました。これらは言葉のない場合も多く、理由が推し量れないだけに、かなりのダメージでした。

また、私自身についていえば、長年の会社人間の習性ですぐ成果や能率が気になったりして、学習者と気持ちの通い合った和やかな学習ができたかという、とても及第点とはいかないと感じています。将来はみんなの力で、小さい組織なりに家族的雰囲気のある独自のカラーを持ったボランティア教室に育てて欲しいと願っています。

辻 健一 (八幡山日本語教室)

ボランティア
一年の成果

インターナショナルファミリーサービス(IFS)

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-5-4-408
TEL: 03-5377-1347 FAX: 03-5377-1348

次の世代を担う子どもたちと母親を 幅広い活動でサポート



近年、在住外国人の増加とともに国際結婚も増加の一途をたどっていると聞きます。確かに、町中でそれらしいカップルを見かけることが多くなりましたし、地域の催し物等に住民として参加する外国の方々も多くなったようです。外国人との交流がそれだけ日常的になってきたと考えれば、それはたいへんうれしいことです。けれども、そこにはまだまだ言葉の壁をはじめとするさまざまな問題が山積みになっているという事実もあるようです。そこで今回は、在住外国人の生活全般や女性・子どもにかかわる問題についての相談業務を行う民間福祉団体「インターナショナルファミリーサービス(IFS)」を訪ね、理事長を務める伊東よねさんにお話をうかがいました。

ソールワーカーとしての さまざまな経験を貴重な糧に

女学校を卒業する頃に終戦を迎えたという伊東さんは、父親の影響で英文学を志望していたそうです。しかし、戦後のぞうきん一枚にも困るような生活のなか、自分のことより近隣の人々のために奔走する母親の姿を見て、福祉や社会問題に強い関心を抱くようになったと言います。そこで、日本女子大学社会福祉学科で学び、その後、法務省関係の奨学金を受け米国へ留学。大学院で精神分析を勉強した後、シカゴのクックカウンティでソールワーカーとして働くようになりました。そこでさまざまな精神疾患の人々やその家族と向き合う経験をされた伊東さんは、一人の人間が成長していく過程で、家族関係というものがどれほど重要なのかということを実感するようになったそうです。

そして、帰国してからはインターナショナルソールサービス(スイスに本部のある福祉事業団の日本支部)・社会福祉法人日本国際社会事業

団の一員として広島県の呉市に赴任。経済的、社会的な差別を受けていた駐留軍のオーストラリア兵と日本人女性との間の子どもたちを、物心両面から援助する活動を開始しました。ここでは多くの地元の人々がキャンプやスポーツ交流などの活動に参加し、地域と連携して問題に取り組んでいくことの大切さを痛感したそうです。また、オーストラリアに渡って現地の民間団体と協力して結成された委員会とともに、さまざまなメディア等を通じて日本に残された子どもたちの窮状を訴え募金キャンペーンを成功に導いた、というエピソードも伊東さんの熱意を物語っています。

国際的な活動から、地域に密着した活動まで

呉市での10年の活動の後、東京に戻った伊東さんは、駐留軍のアメリカ兵と日本人妻の間に生まれた子どもたちの問題にかかわり、多くの国際養子縁組も手がけました。この取り組みを通して、今度は国際家族・子どもの実情に噛み合わなかったり国際間で食い違う種々の法的手続きの整備にも興味を抱くようになったそうです。

このような活動を続けるなか、日本国際社会事業団へ難民援助要請がきたのは、ベトナム戦争直後の頃でした。政府はインドシナ難民を受け入れることにはしたものの受け入れ態勢が整備されていなかったため、カソリック系修道院の協力を得て宿泊所等を確保し、



▲毎年訪れるハワイでのミーティング。国際養子縁組みで幸せに暮らすファミリーの輪が広がっている。

日本に定住するための準備施設を国連と協力して設立。そこで、定住のための学習（日本生活事情・日本語等）や生活指導、就職先の世話等をしたそうです。その活動は、アジア福祉教育財団が発足してすべての業務やノウハウを譲り渡すまで続きました。

次に、伊東さんはこの時の経験を足がかりにソーシャルワーカーの全国組織を結成します。これは、伊東さんの後輩のソーシャルワーカーを中心として構成された組織で、各地域に密着した「難民定住相談員」がそこに定住した難民の相談に対応するというものでした。「こういう国際的な仕事をやっていくと、必ず地元でなければならないこともあるのです。地域に入っただけの隣同士の相談が本当に大切だということを、いろいろな仕事を通して実感しました」

子どもたちの成長を見守り、すべての問題に対応

1992年、前の職場を辞めた伊東さんは、女性と子供の問題、つまり家族の問題により深く取り組むため、オーストラリアの法廷弁護士・フィリピンの神父等10名ほどの理事とともにインターナショナルファミリーサービス(IFS)を設立しました。IFSの主な活動は、家族問題や国際結婚等のカウンセリング業務で、ビザや医療相談をはじめ、最近ではドメスティックバイオレンス（家庭内暴力）についての相談までが持ち込まれてくるそうです。また、子どもには「愛と教育を」と国際養子縁組の活動にも力を入れています。かつて難民定住事業の一つとして、マレーシアのビドン島（ベトナム難民がまず到着した島）にとり残された難民の子供たちに里親を見つけて、ベトナム難民として日本へ里子にきた子どもたちも今ではすっかり成長し、なかには日本へ帰化するにあたって「日本名として伊東姓を名乗らせてほしい」とIFSへ申し出た人もいます。そんなエピソードからも伊東さんの子どもたちに対する細やかな心配りがうかがえます。

「私の仕事は、その場その場では終わらないの。確かに、各種の手続きなどその都度終わる仕事もあるけど、そればかりではなく、その人の一生の経過がずっとかわって行くものも多いから。そういうフォローアップ

▼'98年「東京アジアシティフェスティバル」に参加。



やかかわりが大切なんです」と伊東さん。子どもたちが最初に出会う大切なグループである家族の、すべての問題に関心があるということでした。

地域における国際化、その真の意味を問い直して

このような活動のほかに、IFSでの重要な仕事のひとつに地域・コミュニティに働きかけるという役割があります。伊東さんは再三にわたって地域に密着したボランティアの重要性を説いておられましたが、最も地域に密着した国際ボランティアの一つである日本語ボランティアにとって、それは心強く、また、だからこそプレッシャーも感じる言葉だと感じました。「言葉のハンデキャップというものは、家族の問題を解決するうえでの大きな障壁になりやすい」という言葉を胸に、これからも地域に密着した日本語ボランティア活動を続けていきたいと思えます。また、複雑な問題は自分たちだけで解決しようとせず即専門家に相談する、というアドバイスも、決して忘れないように深く胸に刻んでおこうと思いました。

ところで、印象に残った伊東さんの言葉のひとつに「国際的な問題というなかには、もちろん日本人の家族も含まれる」というものがありました。国際的という言葉は聞くといふ「海外」といった類の発想をしてしまいがちですが、自分たちの国のことも含めて考えてこそほんとうの国際化に近づくのだ、という基本をさりげなく教えられた気がします。

このインタビューのときにもIFSの事務所では、これから海外へ養子として旅立とうとする赤ちゃんがスタッフに見守られてスヤスヤと寝ていました。まるで我が子のようにその寝顔を見つめる伊東さんの姿を拝見して、愛にあふれる伊東さんがいるからこそこのインターナショナルファミリーなのだ実感しました。伊東さんにとってのファミリーとは、きっと、これまでかわってきたすべての人々、またこれからかわるすべての人々を意味しているのではないのでしょうか。

(写真提供/インターナショナルファミリーサービス)

規則の例外と例外の規則

(1)

「正しい日本語」とは何か

日本大学講師

福田知行

日本語の主要な学習項目といえば“語彙”と“文法”というのが一般的な考えだと思われます。語彙は一つ一つ丸暗記をしなければならない不規則性の代表で、文法は規則を覚えれば一つ一つの表現を覚える必要のない規則性の代表ですが、語彙にも規則的なものがあり、文法にも不規則なものがあります。

まず、語彙の規則的なものといえば“複合語”があります。つまり、二つの単語を統合して一つの単語にする方法です。たとえば、「風」と「車」から「風車」を作る方法ですが、実は「風車」には「ふうしゃ」と「かざぐるま」という二つの読み方があり、それぞれ意味が違います。同じような複合語でも、「水車」や「汽車」や「電車」などは読み方も音読みだけで意味も一つしかありませんが、水・蒸気・電気に関した「車」であるということはわかります。これも規則と言えば規則ですが、それが具体的にどのような車かということは実際に覚えるしか方法がありません。逆に「歯車」のように訓読みしかしない複合語もあります。

日本語の複合語で難しい（つまり、不規則な）もののなかには、音読みにするか訓読みにするかという問題があります。これもはっきりとした規則性はありませんが、「音+音」の組み合わせが一番多く80%程度、「訓+訓」の組み合わせが次に多く15%程度、「音+訓」と「訓+音」は非常に少なく合わせて5%程度ではないかと思われ（筆者の印象）。ちなみに最後の二つは「重箱読み」「湯桶読み」と呼ばれるものです。

次に、文法の不規則的なものといえば

“動詞の活用”の例外がありま

す。そのなか

で一番有名なもの

は「する」と「くる」

でしょう。この二つは

不規則度が高いので他の活用



グループとは別のグループになっています（変格活用）。そのほかにも、「ある」「行く」「なさる」「ござる」「くださる」「おっしゃる」「いらっしゃる」などが例外的な活用をします（これらの動詞がどういう点で例外なのかは次回までの宿題にします）。

さらに大きな問題としては“一段動詞”のグループがあります（“グループ2の動詞”とか“母音動詞”とか“弱変化動詞”とか呼ばれることもあります）。普通は「-iru」か「-eru」で終わっていれば一段動詞だと言われますが、実は「-iru」「-eru」で終わる五段動詞（“グループ1動詞”）もたくさんあるのです（筆者が数えたものだけで50個ほどありました。みなさんも探してみてください）。

こうした不規則性は単語（語彙）のレベルでもっとも多く現れ、文（構造）のレベルではあまり現れません。その理由は、単語というものがそもそも丸ごと覚えるものであり、よく使われるものほど記憶に残って変化しないのに対して、文というものは記憶する必要がなく、（意識はしていませんが）規則に従ってそのときそのときに作るからだと思われ。たとえば、「閉まる」「閉める」などの他動詞・自動詞のペアは単語（語彙）のレベルに近いので例外が多く、覚えるのが難しいのですが、「閉める」「閉めさせる」などの使役動詞や「閉める」「閉められる」などの受身形は文（構造）のレベルなので例外はほとんどなく、覚えやすいと言えます。

今回はこうした規則・不規則の問題と日本語の教え方との関連について述べてみたいと思っています。

日本の常識

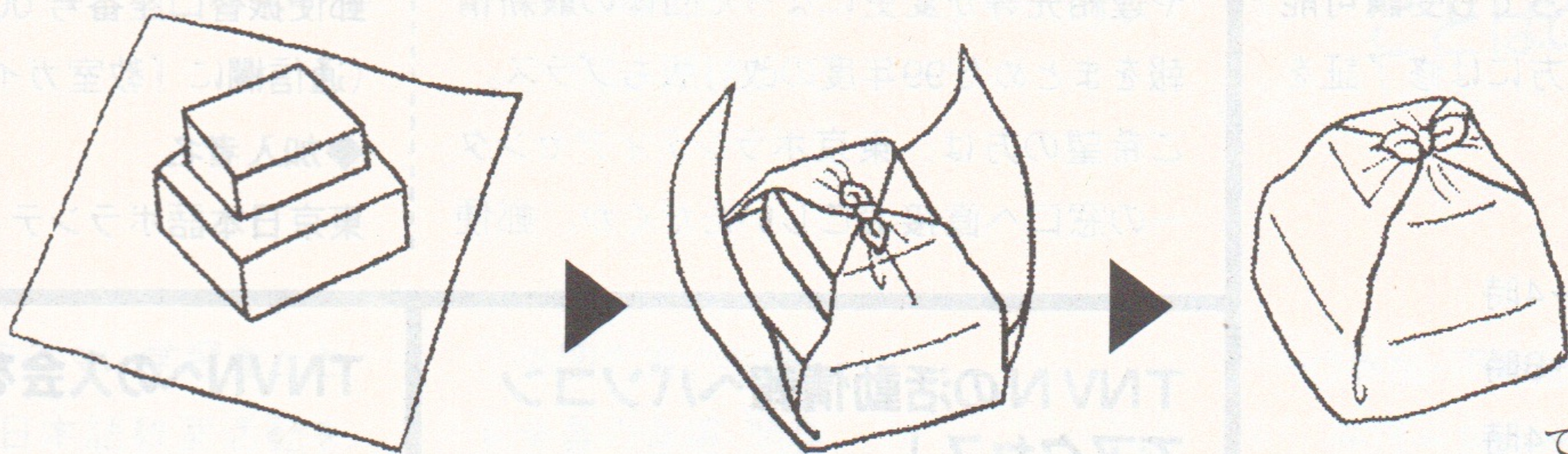
Common sense in Japan

第6回 風呂敷の包み方

日本には、人にものをわたす時、風呂敷に包んで持つ習慣があります。風呂敷は、誰かに贈り物をするときに包むというのが一般的な使い方です。しかしその他にも、今では目にすることが少なくなりましたが、屋号や商標を染めぬいてお店の宣伝をしたり、家紋を染めぬいて冠婚葬祭などの特別なときに用いるというような使い方をしていました。

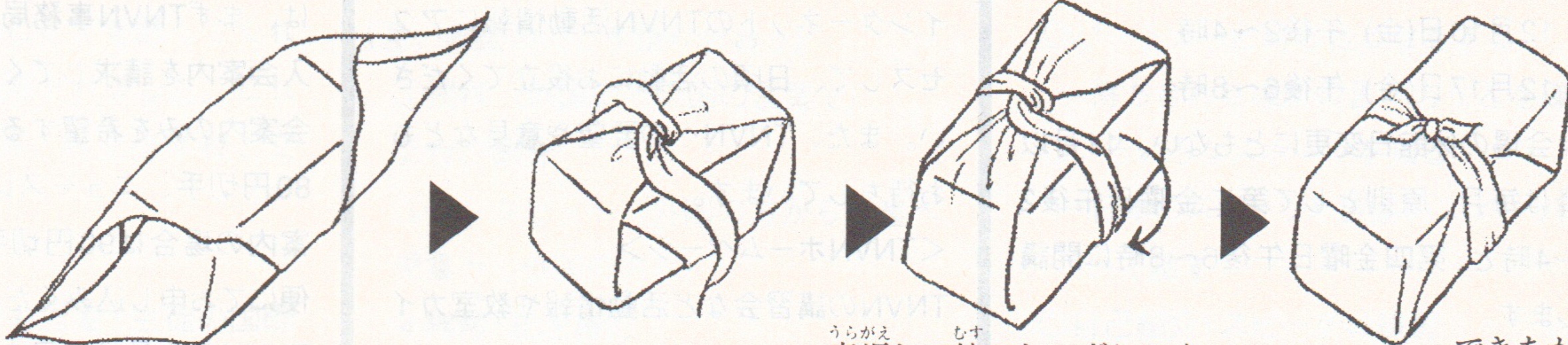
風呂敷の大きさは、大小いろいろありますが、よく使われるサイズは、約70cm角の二幅(ふたはば)と約90cm角の二四幅(ふしはば)の2種類。風呂敷はどんな形のものもきれいに包むことができる上、紙袋などのムダもでないので、リサイクルの面からも価値が見直されて注目を集めています。今回は、覚えておくと便利な風呂敷の包み方を、いくつかご紹介します。

複数のものを包む



できあがり

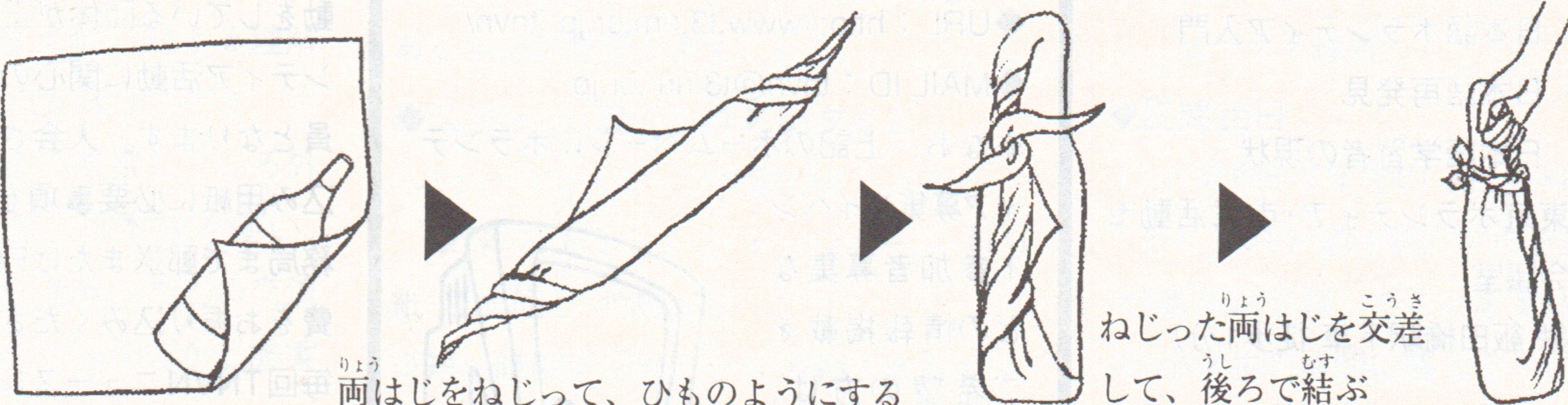
重いものを包む



裏返して結ぶと、ずれにくい

できあがり

長いものを包む

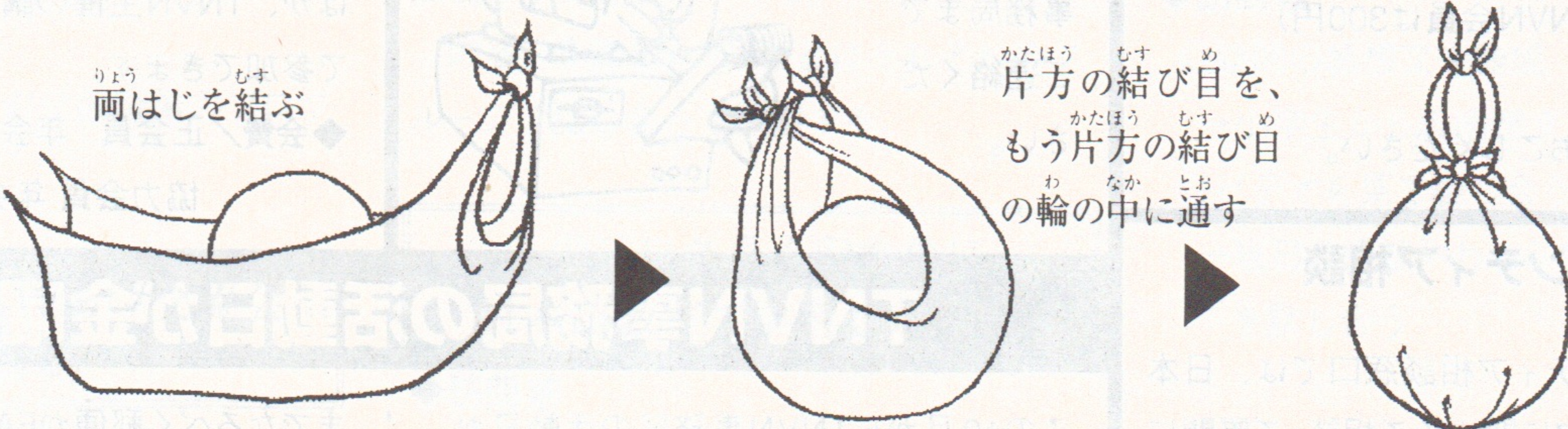


両はじをねじって、ひものようにする

ねじった両はじを交差して、後ろで結ぶ

できあがり

丸いものを包む

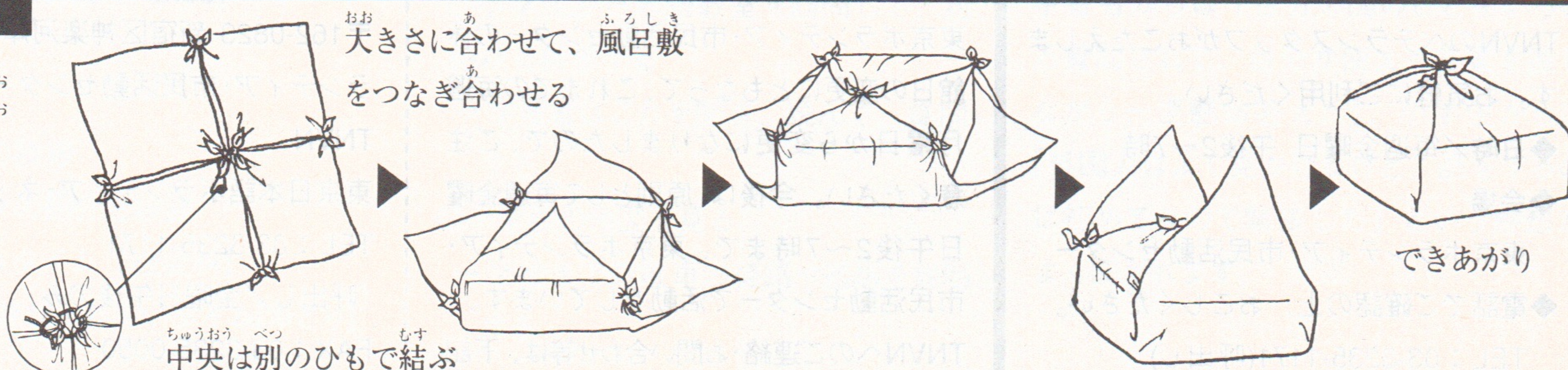


両はじを結ぶ

片方の結び目を、もう片方の結び目の輪の中に通す

できあがり

大きなものを包む



大きさに合わせて、風呂敷をつなぎ合わせる

中央は別のひもで結ぶ

できあがり

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。初めて日本語ボランティア活動に参加する方は、ぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

- 10月18日(月) 午後2～4時
- 10月25日(月) 午後6～8時
- 11月12日(金) 午後2～4時
- 11月26日(金) 午後6～8時
- 12月10日(金) 午後2～4時
- 12月17日(金) 午後6～8時

※会場の休館日変更にともない、11月以降は毎月、原則として第二金曜日午後2～4時と、第四金曜日午後6～8時に開講します。

◆テーマ

- (10月) 日本語ボランティア入門
- (11月) 日本語再発見
- (12月) 日本語学習者の現状

◆会場／東京ボランティア・市民活動センター 会議室

(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時／毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL：03-3235-1171(呼出し)

「ボランティア日本語教室ガイド」、頒布中！

『ボランティア日本語教室ガイド』には、145クラスの活動情報を日本語と英語で掲載。あわせて、外国人のための情報源や相談窓口などのデータも掲載しています。さらに、新たに加入した団体の情報や連絡先等が変更になった団体の最新情報をまとめた'99年度の改訂版もプラス。ご希望の方は、東京ボランティアセンターの窓口へ直接おこしいただくか、郵便

振替で料金をお払込みください。入金を確認次第、郵送します。

◆頒布価格(実費)／1冊600円

郵送希望の場合は送料込み1000円

◆払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に『教室ガイド』と記入)

◆加入者名

東京日本語ボランティア・ネットワーク

TNVNの活動情報へパソコンでアクセス！

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

◆URL：http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/

◆MAIL ID：tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベン

ト参加者募集な

どの情報掲載を

ご希望の方は、

事務局まで

ご連絡くだ

さい。



TNVNへの入会を希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費／正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

TNVN事務局の活動日が金曜日に

この10月からTNVN事務局の活動日が、東京ボランティア・市民活動センターの休館日の変更にもなっており、これまでの毎週月曜日から変更になりましたので、ご注意ください。今後は、原則として毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、下記

までなるべく郵便かFAXをお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1 東京ボランティア・市民活動センター気付

TNVN

東京日本語ボランティア・ネットワーク

TEL：03-3235-1171

(呼出し／金曜日午後のみ)

FAX：03-3235-0050



八幡山日本語教室、学習者募集!

TNVN会員団体の八幡山日本語教室では、学習者を募集しています。近くの方がいらしたら、ぜひご紹介ください。

◆学習時間

毎週火曜日 18:00~20:00

(この時間内でしたら、30分でも学習できます)

◆会場

東京都中部精神保健福祉センター
(京王線 八幡山駅より徒歩2分)

◆学習者会費/一ヶ月 300円

◆問い合わせ・申し込み/中田 紀子

TEL/FAX: 042-372-2236

「入管法改定Q&A」ができました!

皆さんもご存知のように入管法が改定されました。けれども分かりにくい点も多いと思われるので、この度、よくある質問を集めた「入管法改定Q&A」を作成しました。現在のところ、日本語・英語・中国語版があり、韓国語・タガログ語・スペイン語・タイ語・ペルシャ語・フランス語版も作成の予定です。ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

なお、郵送ご希望の方は、切手代等実費をご負担ください。無理な方は相談に応じます。

◆問い合わせ・申し込み

移住労働者と連帯する全国ネットワーク

TEL: 03-3207-7801

FAX: 03-3207-7803

〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18-24

e-mail: fmwj@jca.ax.apc.org



日本語教育相互研修ネットワーク事業 「乳幼児を連れた学習者etc.に 開かれた日本語教室を考える 会」(仮称) 参加者募集

国立国語研究所日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会(平成9年、10年の2回)の話し合いから、多くの日本語教室での「子連れ」についてさまざまな問題が出されています。今回、教室での学習者を含め表題の会をつくり、各自の意見・課題を持ち寄り検討します。

このテーマに興味のお持ちの方、ご賛同の方の参加をお待ちしています。地域が広範囲になるため遠方の方でも参加できるよう、一堂に会する研修会のほか、地域ごとの集まりや通信による情報交換も考えています。

◆問い合わせ・申し込み

田所 希衣子(発起人)

ICAS国際都市仙台を支える市民の会

〒981-3109 仙台市泉区鶴が丘4-9-7

TEL: 022-375-5639(19:00以降)

FAX: 022-375-8373

e-mail: jets@sda.att.ne.jp

もっと知りたい! バングラデシュ

バングラデシュのNGOであるBRACの手工芸品部門アーロンで輸出担当として働いているモティア・パルビンさんを講師に迎え「手工芸品と女性たちの生活向上」についての講演と、手工芸品作成の実演および展示を行います。

◆日時/10月17日(日) 14:00~16:00

◆会場/中野区立商工会館 3F大会議室

◆定員/先着60名

◆締切/10月15日(金)

◆参加費/無料

◆問い合わせ・申し込み

(財)中野区国際交流協会

TEL: 03-3387-2580

平成11年度 ボランティア・リーダー研修会

ボランティア団体連絡協議会・実践団体部会

◆日時/10月30日(土) 10:00~17:15 (終了後、交流会を行います)

◆会場/飯田橋セントラルプラザ 11階会議室

(JR・地下鉄 飯田橋駅 徒歩1分)

◆内容

第一部(全体会)

介護保険で出来ること!?

出来ないこと!?

第二部(分科会)

第一分科会: 資金づくり

第二分科会: リーダーシップの向上

第三分科会: 会員拡大/後継者養成

第四分科会: 地域のネットワークづくり

第三部(全体会)

ボランティアとNPOによって21世紀
を開けるか!

◆参加費/一人 1,000円(交流会別途)

◆問い合わせ・申し込み

東京ボランティア・市民活動センター
(河村)

TEL: 03-3235-1171

FAX: 03-3235-0050

JAFSが日本語学習者を 募集中!

TNVN会員団体のJAFSでは、日本語を学びたい学習者を募集しています。

近くの方がいらしたら、ぜひ紹介ください。

◆学習時間/毎週水曜日 18:50~20:30

◆会場/日本聖公会三光教会会館

品川区旗の台6-22-24

(大井町線・池上線

旗の台駅北口より徒歩5分)

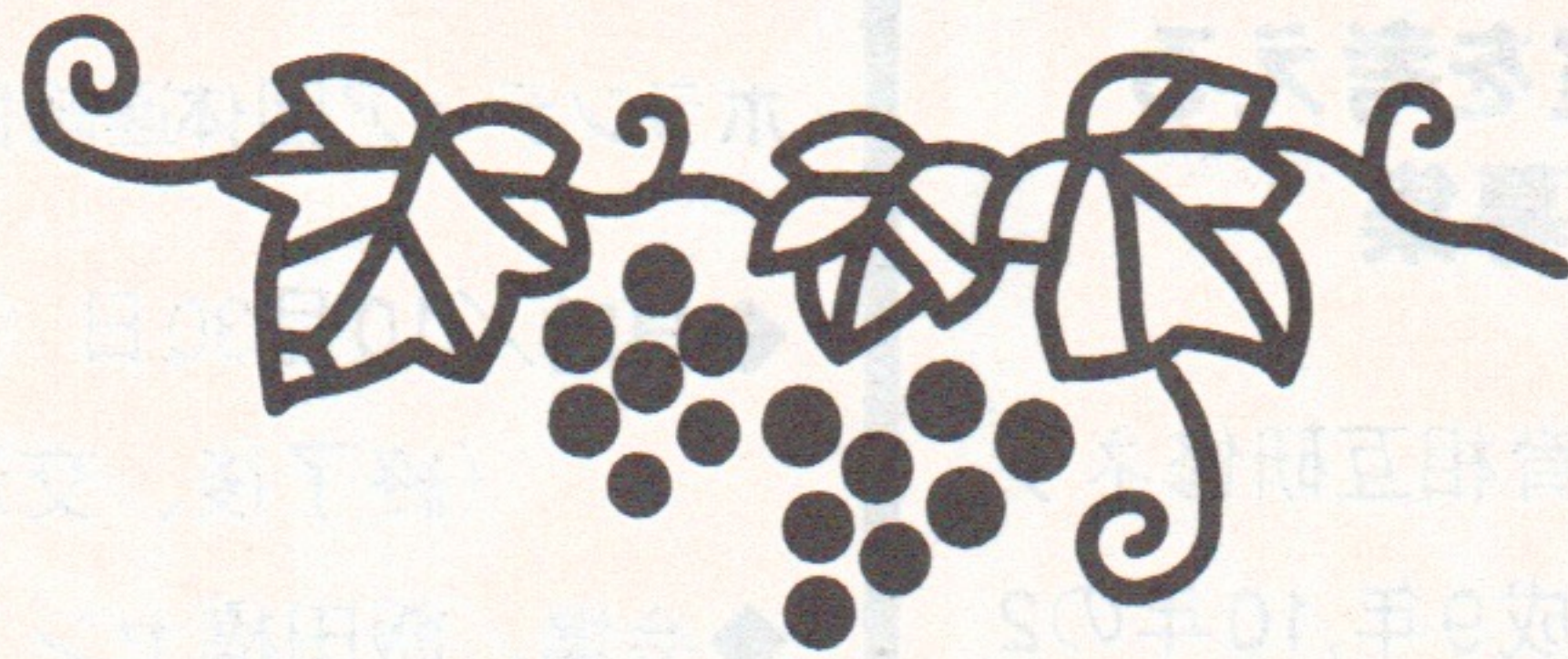
◆学習者会費/一ヶ月 500円

◆問い合わせ・申し込み

JAFS 吉村輝夫

TEL: 03-3703-6696(19:00~21:00)

BULLETIN BOARD



ニュースレターが印刷所から届いた後の月曜日は、早速、発送作業が始まります。会費の半分以上はこれらの郵送費となりますので、少しでも費用をおさえるために、事務局は発送物をなるべくまとめて送るよう心がけています。机の上に印刷物を並べ、5~6名のスタッフが封入したり、封筒を閉じたり、流れ作業で行います。閉まる直前の郵便局にすべりこんで胸をなでおろすこともしばしばです。

私は今年からニュースレターの発送を担当することになりました。印刷物を封筒に入れて出すだけのことではありますが、数が多くなると思ったよりも時間をとられます。

宛名シールは会員担当が作成しています。年度はじめは異動も多く、パソコンの入力に追われていました。このところやっと一段落したところです。

発送作業をしているなかで、他のグループの情報や日本語ボランティアの動向なども耳に入ってきます。時間のある方、手始めにいっしょに発送作業をしてみませんか。いろいろな人と接する場所であり、収穫もあると思います。

(ニュースレター等の発送作業は、原則として、偶数月の第一金曜日の午後に事務局で行っています)

甲斐 武子 (TNVN運営委員)

地域の日本語ボランティア事情

多摩市発

多摩市では市民・民間団体・行政が一体となって、平成5年3月に第三セクターの多摩市国際交流センター(TIC)が設立されました。それまで個々に活動をしていたさまざまな団体が合流したため、現在、私たちが把握している限り、国際交流の分野ではTICのほかに活動をしている団体等はないと思われます。

TICは現在、下記の部門があり、それぞれ下記のような活動をしています。

- 交流事業部 = バーベキューパーティー・花火大会見物・スポーツ・文化交流等
- 広報部 = 広報紙『ふれんどりーたま』の発行等
- 開発運営部 = ウェルカムパーティー・会員名簿の作成等
- 語学セミナー部 = 日本語セミナー・外国語セミナー

ところで、日本語セミナーの講師および学習者はTICの会員になることが原則で、個人会員は3000円、学生・生徒会員は1000円の年会費を納めます。また、日本語セミナーの活動資金(教材・事務用品・文集作成・イヤーエンドパーティー・講師研修費等)は予算化されており、十分活用しています。講師や学習者は、勉強だけではなく、TICの行事にも参加して楽しんでいます。

9月中旬には京王線聖蹟桜ヶ丘駅南口に総合文化センター『ヴィータ・コミュニネ』がオープンします。その7階の一室がTICの活動室として使用できるようになりました。素晴らしい近代的なビルで勉強できることになり、みんなうきうきしています。

(井上 和美 / 多摩市国際交流センター)

SPECIAL THANKS

★国際ファミリーサービス
伊東 よね 様
快く取材に応じていただきました。

メディアに見る TNVN 情報

◆アルク発行『月刊日本語』
'99年10月号
TNVNにおける情報交換のあり方を紹介

WELCOME!
新入会員のご紹介

◆正会員(団体)
東村山地球市民クラブ
◆協力会員(個人)
武 由利子、小澤 久子
(敬称略)
'99年9月20日現在の会員数は、
正会員70団体・協力会員75名・賛助会員
10です。

編集後記

●'93年12月のTNVN発足以来、毎週月曜日に行っていた事務局活動がこの10月から毎週金曜日へと変更になりました。とは言っても、すでに月曜日に飯田橋へ来るのが長年(?)の生活のリズムとなっているので、これからうまく転換できるかちょっぴり不安な今日この頃…。



発行人 / 中田 紀子
編集人 / 前田 恭子
レイアウト / 鶴田 環恵